

佛立開導日扇聖人物語 第7回



200th Anniversary
佛立開導日扇聖人のご生誕200年慶讃

兵庫県尼崎の本興寺檀林(学校)で入学を拒否された開導聖人は、お師匠さまの配慮により千葉県の細草檀林に入学することになったんだ。千葉県行きのため、京都の生家に戻られていた開導聖人のもとに、二人の友人が訪ねて来たんだ。今回は西行庵での修行のお話しをするね。

西行庵

京都の生家に戻られた開導聖人のもとに昔からとても仲の良かった友達村上勘兵衛と村田麦浪がやってきたんだ。そして、二人は、開導聖人が千葉県の細草檀林(学校)に行く(入学する)ことを強く反対したんだね。

その理由として「千葉県で僧侶として勉強に励み、将来、偉い僧侶になるよりも、このまま京都に残り、悩み苦しむ人や病気の人をお救いした方がよい」というんだ。

開導聖人は、二人の言葉を真剣に聞き、よく考えられ、千葉県の細草檀林に行くことをやめたんだ。そして、僧侶としての勉強よりも、多くの人々に御題目を伝え弘めお助けするという道を選ばれたんだ。

西行庵での修行

村上と村田の二人は、早速、京都・東山



西行法師(1118年~1190年) 平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての僧侶・歌人



開導聖人に千葉の細草檀林行きをやめるように説得する村上・村田の二人。

の双林寺境内にあった「西行庵」という所を、開導聖人の「住まい」と「ご奉公の場所」として借りてくれたんだ。

この「西行庵」とは、昔、自然を愛し全国を旅して回った歌人の西行法師(一一一八~一一九〇)が、京都・東山で暮らしていた時に住んでいた小屋なんだ。長い間、誰も住んでおらず荒れ放題で、キツネやタヌキが住みつき、夜には妖怪(人の理解を超えた不思議なもの・不気味なもの)が現れるとウワサされていたんだ。

嘉永元年(一八四八)七月末、開導聖人はこの西行庵に住まわれ、ご信心の勉強と毎日「御題目を一万遍」お唱えするという大へん厳しい修行に励まれたんだ。

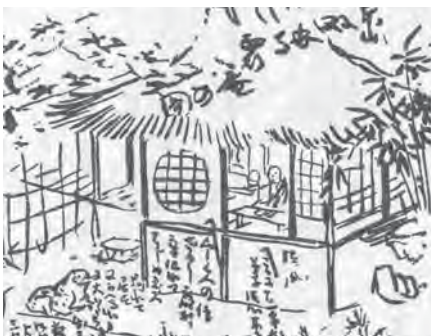


京都・東山、円山公園の奥にある現在の西行庵。開導聖人はここで2年間、修行の日々を送られた。

開導聖人が西行庵に入り、毎日御題目をお唱えされると、不思議なことに、妖怪などが全く現れなくなっただ。そして西行庵には、次々と多くの人たちが集まるようになったんだ。開導聖人のお話を聞きに来る人、喜んでご信心をはじめめる人、御題目でご利益をいただいた人などがお礼にと、日々、沢山の参詣者がやって来るようになったんだね。

嘉永三年(一八五〇)、西行庵に来て二年が過ぎた頃、あまりに参詣者が増えたので、双林寺(西行庵はここのお寺の境内地にある)とその近所から、多くの苦情(不平や不満)が上がり、開導聖人は西行庵を追い出されることになってしまったんだ。

以後、開導聖人の行く所は、必ず御題目のご信者が増えていったんだけど、周りの人から「人の出入りが多い」「僧侶が寺に住まず町の中に住み布教(宗教を広めること)をしている」と勝手な言い分で嫌がられ、五度も居場所を追いつけられるというご苦労をされたんだ。でもこれらの苦労が後の「佛立講」を作られる原動力(活動のもととなる力)となったんだよ。



開導聖人が西行庵に入り3日目、不思議なことに妖怪などが全く現れなくなった。「清風一代記略図」・御自画伝・扇全5巻195頁